平成２７年度第３回四日市市総合教育会議

平成２７年１０月２１日

午後　１時２９分　開会

１　開会

○舘政策推進部長　皆さん、こんにちは。

それでは、第３回になりますが、総合教育会議を開催させていただきます。

前回に引き続きまして、私のほうで司会をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

座って失礼いたします。

お手元の事項書をご覧いただきたいと思うんですけれども、本日は、２番の四日市市教育大綱の案についてと、学力向上のための懇談会の提言書についての、大きく２点となっておりますので、よろしくお願いいたします。

前回でございますが、教育大綱の素案ということでお示しをさせていただいて、さまざまなご意見を頂戴いたしました。その後、事務局において修正を行いまして、本日最終的な成案としてお配りしております。

本日の会議におきまして、この大綱の策定に関する最終的なご議論をいただきたいと思っておりまして、おおむね本日で決定していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本会議は公開でございますが、傍聴者はいらっしゃいますか。

○政策推進課杉村　今のところはおりません。

○舘政策推進部長　後で入ってこられるかもしれませんけれども、一応公開ということで、記者の取材等があるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速、議題へ入っていきたいと思います。

２　四日市市「教育大綱」（案）について

○舘政策推進部長　まず、事項書の２、四日市市「教育大綱」（案）に参ります。

この案について、まず、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

○稲毛教育総務課課付主幹　教育委員会教育総務課の稲毛でございます。

お手元の四日市市教育大綱という緑色の表紙の冊子をご覧ください。

説明にかえまして朗読をさせていただきますので、１ページからご覧ください。

１、はじめに。

平成２７年４月に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行されました。この改正は、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図る等を目的として行われたものです。これにより、新教育長や総合教育会議の設置、首長による教育に関する大綱の策定など、教育委員会制度が大きく変わりました。

大綱とは、教育の目的や施策の根本的な方針を示すものであり、教育基本法第１７条に規定する基本的な方針を参酌して定めるものです。

本市では、平成２３年度に四日市市総合計画を策定し、基本目標５、「心豊かな“よっかいち人”を育むまち」において、教育に関する基本的な政策を掲げています。また、学校教育分野においては、「輝く　よっかいちの子ども」の育成を目指した四日市市学校教育ビジョンを策定し、これを本市の学校教育分野の教育振興基本計画として位置づけています。

今回、本市において策定する四日市市教育大綱は、総合教育会議の協議を経て基本的な理念を示すものです。本市総合計画の基本目標５を教育大綱の方針として、また、本市学校教育ビジョンを教育大綱の５つの理念を実現するための具体的な施策として位置づけました。

まずは、本市の子どもたちに社会人になっても通用する問題解決能力を育むため、四日市市学力向上アクションプランを策定し、教育大綱がより実効性のあるものとなるよう取り組みを進めます。

下の図が、四日市市の総合計画、そして本総合教育会議、教育大綱、そして四日市市学校教育ビジョンの位置づけを示した図となっております。

２、対象期間。

対象期間はおおむね５年間とします。平成２８年度から平成３２年度。

３、四日市市が目指す教育。

四日市市は、昔から物が集まり、人が集まる要衝として、市場、宿場、港を中心に発展してきた歴史あるまちです。

また、豊かな自然を生かした農業、長い伝統を持つ地場産業、さらには高度な技術を有

する物づくり産業、物流業、商業など、多様な産業が立地するまちです。

一方、本市においても、全国と同様に少子化・高齢化が進み、生産年齢人口の減少が予想される中、今後のまちの姿も大きく変わろうとしています。

本市では、国家百年の大計と言われる教育の重要性に鑑み、教育は人づくりという理念のもと、ふるさと四日市に誇りを持ち、「生きる力」、「共に生きる力」を身につけた「輝く　よっかいちの子ども」の育成に取り組んできました。しかし、時代の変化や社会のニーズに対応して、教育のあり方を適宜よい方向に見直していかねばなりません。

子どもたちが新しい時代をたくましく生き抜くためには、夢や志を持ち、学ぶことと社会とのつながりを意識しながら、自立した人間として生きる力が必要です。また、多様性を尊重する心豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力などを身につけ、他者と協働し、ともに未来を切り開いていく力も求められます。

一方、本市の子どもたちの現状に目を向けると、全国学力・学習状況調査からは、基礎的、基本的な学力は身についているものの、知識を活用する力にやや課題があること、家庭学習での学習習慣の定着にやや課題があることなどの傾向が明らかになっています。

また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査からは、８割を超える子どもが運動好きと答える一方で、小学生の体力は全国平均を下回る傾向となっています。

本市の子どもたちに、社会人になっても通用する問題解決能力を養成するとともに、豊かな人間性を身につけ、ふるさと四日市に愛着と誇りを持つ、心豊かなよっかいち人を育むことを目指し、四日市市の教育を支える５つの理念を以下に示します。

次ページをご覧ください。

４、四日市市の教育を支える５つの理念として、５本の理念をこの後に掲載してございます。

１、社会人になっても通用する問題解決能力の養成。

子どもたちが将来生きていく社会は多様で変化が激しく、一層複雑化し、解決の道筋が明らかでない問題が多く存在します。

そのため、得た知識を活用して、みずから考え、他者と議論し、解決方法を見つけていくような力を養うことが大切です。

このように、自身が身につけた知識、技能を実社会や実生活で応用するとともに、他者と協働しながら問題を解決していく主体的、能動的な能力を社会人になっても通用する問題解決能力と位置づけます。

このような力を発達段階に応じて身につけることにより、子どもたちの社会的自立を促し、学校での学び、学力を社会における困難を克服していく力へとつなげます。

理念の２、豊かな人間性と健やかな体の育成。

自立した人間として社会で生きていくためには、基本的な生活習慣や規範意識を身につけ、主体的、自律的に活動する力を育むとともに、他者への思いやりや豊かな感性を備え、他者との人間関係を形成していくコミュニケーション能力を育成することが大切です。

そのような資質、能力を育む中で、人としてのあり方や社会のあり方についての考えを深めることにより、人格の基盤となる道徳性が備わっていきます。

また、子どもの発育は早期化し、身長、体重などの体格は向上する一方で、体力、運動能力や身体能力は低下傾向にある中、運動やスポーツに親しみ、運動習慣を身につけることや、自他の健康、安全について実践していく力を養うことが必要となります。

このように、豊かな人間性と健やかな体を育むことは、「生きる力」、「共に生きる力」の基盤となるものです。自然体験や社会体験、文化体験等、さまざまな体験活動を通して、子どもたちの豊かな心とたくましい体を育みます。

理念の３、夢や志の実現に向け、自ら学び続ける意欲・態度の涵養。

子どもたちが自身の夢や志を実現するためには、学び続けることが不可欠です。そのため、何のために学ぶのかという目的意識を持つことや、学ぶことと社会のつながりを意識しながら、主体的な学習意欲を持つことが必要となります。社会人から話を聞いたり、さまざまな体験活動を行ったりすることにより、他者とかかわりながら学ぶことは、子どもたち自身が将来を考えるきっかけとなっていくものです。

こうしたキャリア教育の充実や、本市の強みを生かした体験活動、本市独自の連携型小中一貫教育の充実によって、子どもたちに主体的、協働的に学ぶ意欲や態度の涵養を図り、学校での学びを自分自身の人生の充実、幸せや将来の社会貢献につなげます。

理念の４、家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育の実現。

少子化、高齢化に伴う地域の変容、家庭環境の多様化、社会におけるつながりの希薄化など、子どもを取り巻く教育環境は急激に変化しています。

そのような中、子どもたちが基本的な生活習慣を身につけること、社会のルールやマナーを学ぶことなど、教育における家庭の役割は大変重要となっています。

また、厳しい経済状況にある家庭や、教育的に不利な環境にいる子ども、特別な支援を要する子どもなど、個別の教育課題への対応も求められており、子どもたちの学習機会を

ひとしく確保するためには、福祉などさまざま行政機関と連携した環境整備が不可欠です。

このような時代や社会の変化に対応するためには、家庭、地域社会、学校、行政の連携、協働がこれまで以上に必要です。

地域の子どもたちを健やかに育む四日市版コミュニティスクールの取り組みを、多様な人が集い、支え合い、協働するための核として位置づけ、地域社会全体の横の連携、きずなを生かした教育の実現を目指します。

次ページをご覧ください。

５本目の柱です。

５、都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進。

本市の歴史は古く、発掘調査によって、弥生時代にはまちの基盤となる集落が幾つも形成されていたことがわかっています。また、奈良時代の地方の役所跡と見られる久留倍官衙遺跡が確認されており、この地域が当時の政の重要な地であったことを裏づけています。室町時代には定期的に市が開かれるまち、江戸時代には東海道の宿場町、そして、明治以降は近代港湾を有する商工業都市として、人や物の往来によって栄えてきました。

このような豊かな歴史を背景にさまざまな文化が育まれ、現在も数多くの文化財や伝統芸能などが継承されている文化力の息づくまちでもあります。こうした地域の歴史や伝統、文化を学ぶことを通して、本市の発展を支えてきた先人の志に触れることができます。

一方、伊勢湾と鈴鹿山脈に囲まれた豊かな自然にも恵まれ、特色ある農業や地域に根づいた地場産業も盛んです。また、臨海部や内陸部には、全国有数の石油化学コンビナートや、世界最先端の半導体工場をはじめとする多様な物づくり産業が集積し、国際拠点港湾である四日市港と相まって、全国屈指の産業都市として発展を続けていることが本市の大きな特長となっています。

こうした本市のさまざまな産業と連携した教育や、地域で働き、地域を支える人々の協力を得て展開する学習によって、ふるさと四日市への郷土愛を育み、社会の一翼を担う人材の育成につなげます。

さらに、四日市公害の経験や教訓、公害対策のモデル都市としての産業の発展と環境保全を両立させてきたまちづくりもまた本市の大きな特長の１つです。市民、企業、行政が一体となって進めてきた環境改善の歩みや、そこで培われた環境技術を生かした国際貢献活動は、小学校社会科の教科書にも紹介されています。四日市公害と環境未来館などを活用して、こうした本市ならではの特長を生かした環境教育を進めることにより、将来にわ

たって豊かな環境を持続する持続可能な社会づくりの一翼を担うための価値観の形成を促します。

また、新たに芽生えつつある文化力や産業観光を生かしたまちづくりについても学び、本市のさまざまな魅力や地域資源を知ることを通して、産業と環境、文化が調和するまち四日市への愛着と誇りを醸成し、心豊かなよっかいち人の育成に努めます。

以上が教育の５本の理念です。

この理念を実現するためにということで、５番で結びを記載してございます。

５、理念を実現するために。

教育大綱の５つの理念は、これからの本市の教育の方向性を示すものです。

学力を問題解決能力と関連させて位置づけ、その養成を図ること、夢や志の実現に向け、何のために学ぶのかという学びの意欲と態度の涵養を図ること、さらに、都市の特長である豊かな地域資源を教育に生かすことなど、教育に対する本市独自の姿勢を表現しています。

これら理念に示す姿を着実に実現するため、本市総合計画の基本目標５を教育大綱の方針として、また、本市学校教育ビジョンを教育大綱の５つの理念を実現するための具体的な施策として位置づけます。

また、学習環境の充実や学校の施設整備など、具体的な施策の実施に当たっては、その進捗状況について適宜評価を行い、子どもたちを取り巻く教育環境の充実に努めていきます。

以上でございます。

○舘政策推進部長　どうもありがとうございます。

ここでご報告いたします。

中日新聞さんが今お入りになりましたので、よろしくお願いします。

それでは、今朗読していただきましたように、本日、教育大綱の、ほぼ成案という形でご説明をさせていただいたところでございますが、まずは、この案に対しまして、皆様方より内容について何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

また、中身だけではなくて、この教育大綱を踏まえて、今後の本市の教育にこれをどう生かしていくかと、そういった点でも結構でございますので、ご発言をいただければと思います。

いかがでしょうか。

○渡邉教育委員　細かい点が幾つかと、ちょっとした話です。

まず、大きな話から申しますと、これは私の質問でありますが、４の５つの理念の３の下のパラグラフ、「こうしたキャリア教育の充実や」から、その次の２行目のところですが、「本市独自の連携型小中一貫教育」というのは、本市として非常に特色のある小中一貫教育を指しているのかどうか、単なる修飾語なのか。その確認をさせていただきたいということが１点でございます。

あとは、「てにをは」みたいなものばかりなんですが、３の四日市市が目指す教育の後半の部分の、下から１１行目の「一方」というところのパラグラフの３行目であります。３行目のところで、「やや」が、知識を活用する力にやや課題がある、それから、家庭学習での学習習慣の定着にやや課題がある。同じように「やや」になっているので、どちらを強調すべきなのかということですが、私の感じでは、知識を活用する力にやや課題があるということは、ここは「やや」でよくて、その次の後半のところは「やや」を取って、かなりといいますか、かなりというのも強調し過ぎのような気もしますが、もうちょっと強調する、あるいは、「やや」だけ取って定着に課題があるとするなど、めり張りを考えていただいたほうがいいのではないかということであります。

それから、また、「てにをは」の小さいところでありまして、４の２の一番下から２行目、「豊かな人間性と健やかな体の育成」の下から２行目の最後のところ、「育くむ」の「く」が要らないぐらいのことかなと思います。

それから、もう一つ気がつくところで、初めのところの絵で、下のつながりを強調しているところですが、ここでは、最後のところで学力向上アクションプランを策定すると書いてあるんですね。

○舘政策推進部長　下から２行目ですね。

○渡邉教育委員　ええ。だから、ここはやっぱり学力向上アクションプランとしたほうがここではいいのではないかと。あと、「まずは」と書いていますから、その後も続くということは当然想定されるわけですが、ここのレポートの中では、やっぱり学力向上アクションプランではないのかなと思いますが、そこのところは少し議論していただければよろしいかなと思います。

○舘政策推進部長　すみません、最後は、私が理解できませんでした。

○杉浦教育委員　活字とここの字が合っていないと。

○舘政策推進部長　下の活字ですね。本文の中と図ですね。

○渡邉教育委員　ええ、図です。

○加藤教育委員　こちらを、本文に合わせるということですか。

○渡邉教育委員　本文に合わせて「学力向上」をつけたほうがいいのではないかと思うんですが。

○田中市長　整合がとれないということですね。

○舘政策推進部長　図面を学力向上アクションプランと入れたほうがいいと。

関連することはありますか。

○杉浦教育委員　私も渡邉委員と同じところが気にはなったんですが、協議をぜひとは思うんですけれども、確かに、「はじめに」のご指摘のところで、本文中と下の図が一致していないというところで、少し気色の悪さを感じるというのはあるとは思うんですが、下の図に関しては、やはり長くずっと残っていくと思うんです。そうした中で、当初、この中でも、四日市市の総合計画と今までの四日市市の学校教育ビジョン、それに今回の教育大綱が、どのように位置づけがされているのかということがなかなかすっきりと理解しにくいという流れの中で、今回、この図をすっきりと体系づけていただいたことはすごくわかりやすいですし、これが外に出たことによって、学校現場の先生だけではなくて市民の方々も今回の教育大綱が、なるほど、四日市市の総合計画に、こういうところがすごく手厚くなったんだなということがすごくわかりやすいと思うんです。そうなったときに、下のフロー図のところに、まず初めのファーストステップとして行っていく四日市の学力向上という言葉まで入れてしまうと、この後にさまざまな学力向上以外のアクションプランも打ち立てていくときの整合性がまた崩れてしまうと思いますので、いろんなものの体系図としてはアクションプラン、もし上の文章との気色悪さがあるのであれば、上の文章にもアクションプランという言葉を入れた流れの中で、まずはアクションプランというふうに書くとすごくいいんじゃないかなと思います。

○舘政策推進部長　アクションプランがもっと、いろいろこれから策定される。

○杉浦教育委員　策定されることもあるよということも伝わるので、図は触わらずに、私は、文章で渡邉委員のご指摘があったところを直したらどうかなと思いました。

気になったところはよく似たところで、次のページの３番の四日市市が目指す教育のところの、ご指摘があった、「一方」というところからなんですが、おそらく、これを書かれたときには、学調の調査結果の数字を見比べながら書かれたと思いますので、数字を全国と四日市市と見比べたときに、とても劣っているとか課題があるわけではなくて、若干

の数字が下回っていたというところを書かれたんだろうなと思いました。ということであれば、同じやや課題がというのを繰り返すのではなくて、やや課題が見受けられた知識や活用する力と家庭学習での学習習慣の定着というのを並列にしていただいて、この２つがともにやや課題があったというようなニュアンスが伝わるようにしていただいたほうがいいのではないかなと。

○田中市長　僕もそれを言おうかなと思った。

○杉浦教育委員　あと、そういった細かなところで、次のページの大きな４の３の文頭の書き出しの部分が、１字頭が下がっていなかったので下げていただきたいなというのが気づいたところではあります。

非常にすとんと活字が頭の中に落ちてくる文章にも前回に比べてなったと思いますし、何より、非常に四日市らしさというものがいろいろなところにちりばめられているということも踏まえて、各委員の意見を酌み取っていただいたいいものになったのではないかなというふうに非常に感じました。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

それでは、今のところ、ちょっとここで１回議論を進めたいと思うんですが、まず１ページ目のアクションプランの表記、図表と文章でございますけど、事務局としてどうですか。上の文章をアクションプランとしておいて何か差し支えが出るようなことはありますか。この後、学力向上アクションプランというのは実際にはつくっていくわけですけど、どうでしょうか。

○吉田教育監　教育委員の皆さん方も、前回のものを受けた後でまた協議をいただいて、やはりアクションプランを今後継続していくということであれば、まずは、学力向上のアクションプランを第１弾としては出すけれども、それ以降もまた出すというようなご意向もあったので、ここは先ほど言われたように、上の文章を加筆して、まず、第１弾としての学力向上アクションプランを策定していくというほうがわかりやすいかなとは思います。

○加藤教育委員　例えば、ここの今のお二人のご意見等を踏まえると、本文中の下から２行目ですが、問題解決能力を育むため、括弧を取ります、四日市市学力向上のためのと入れて、「アクションプラン」というふうにすれば、まずは学力向上のためのアクションプランと。そうすると、下の図もそのままアクションプランでいけます。例えば、こんな訂正の仕方もあるんじゃないかなと思うんですが。

○田中市長　そういうのもいいと思うし、「学力向上アクションプランをはじめ」でもい

いですね。アクションプランを今後も策定していくというニュアンスを残しながら。

○加藤教育委員　まさに、第１の矢、第２の矢という、そういうイメージでいっていただくといいかと。

○田中市長　もう一つ僕から、この体系は今後もずっともうこのまま続いていくわけですね。だから、学校教育ビジョンのところに第３次と入っているので、第３次だけじゃなくて、その後もこの体系は変わらないわけですね。だから、体系図としては、第３次は抜いたほうがいいんじゃないかなと思います。

それから、この流れは上から下へじゃなくて、左から右へということだよね。だから、「心豊かな“よっかいち人”を育むまち」と「輝く　よっかいちの子ども」を、最後のところに矢印をつけると、左から体系的に流れていくというイメージになるんだけれども、これをぱっと見ると、上から下へというふうにもとれるので、誤解を招かないためにも矢印をつけたらどうかなと思う。

○舘政策推進部長　総合計画から右に向けての矢印があるといいですね。

○田中市長　そう。教育大綱があってアクションプランがあると。

○舘政策推進部長　総合計画から大綱に向けて矢印があってもいいですね。

○田中市長　だから、もうこのまま矢印にしてもいいけどね。育むまちという長い楕円形の右の端に矢印をつければ。

○舘政策推進部長　この右端は矢印ですね。

○田中市長　そうしたら、体系立って「輝く　よっかいちの子ども」というのも、アクションプランにつながっていくわけでしょう。

○舘政策推進部長　まず整理をさせていただきます。

ここのページでいきますと、まず最初のアクションプランのところは、まずは今回、学力向上のためのアクションプランをつくるというような表現に文章中をさせていただいて、下の図表は、このままアクションプランという表記にさせていただきます。

それから、第３次四日市市学校教育ビジョンの第３次は取らせていただく。

それから、今、市長がおっしゃったように、左から右に流れているということがわかるような表現をさせていただく。今ご指摘いただいたような案もいただきながら調整させていただきます。

○田中市長　そうすると、学校教育ビジョンと教育大綱は、左から右へということであると、むしろ大綱から教育ビジョンへという流れになるわけでしょう。

○舘政策推進部長　大綱を踏まえながらですね。

○田中市長　大綱が上位にあると。

○舘政策推進部長　大綱が上位にあるということにしているんですよね。

○田中市長　これだと、今言った矢印をつけてしまうと、ここも矢印のように見えるので、この三角形が、逆じゃないかなと思います。

○舘政策推進部長　上から下という意味ですか。

○田中市長　だから、三角形じゃなくてもいいわけだけど、そういう上位計画と下位計画の位置づけがわかるような図形にしたほうがよりわかりやすいかなと思う。

○松崎教育委員　大綱の理念を支えるために、下に三角を置いてということですよね。

○舘政策推進部長　この辺はどういう意図でしたか。

○松崎教育委員　三角でちょっと不安定ですけど。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー　四日市市教育大綱を受けて、そこから流れ出すというイメージといいますか。

○舘政策推進部長　そうすると、ちょっとイメージがおかしいですね。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー　要は、それを受けて下で、先ほどの松崎委員のように支えるというイメージもあろうかと思いますが、上位というか、高さというものをある程度、三角形であらわしたという意図もあろうかと思います。

○加藤教育委員　例えば、黒で囲ってある総合教育会議の四角の枠がございますね。これを下まですとんと三角形を塗り込んでしまえば、上下関係が出ませんかね。三角形のところの部分を全部黒にしてしまう。黒はほかの色に変えて、同じ色にしたほうがいいんですけど。そうすると、総合会議とビジョンとが一体的なもので、上に大綱がおるということにもなりますよね。確かに、この三角形１点だけで支えるのは不安定なので、もうちょっと大きなものでぐっと支えると。

○舘政策推進部長　意味合いとしては、今言ったような形にさせていただきます。

○加藤教育委員　確かに、いろんな方が見られて、いろんな思いを持たれるんでしょうけど。

○舘政策推進部長　この図は大事ですからね。今後、本当にこれから使っていく概念ですので。

○杉浦教育委員　今のだと、総合教育会議の中でも学校教育ビジョンをつくったというような見え方になってしまいませんか。どうでしょう。

○渡邉教育委員　学校教育ビジョンは、前から四日市の教育委員会の中の非常に大きな太い流れですよね。

○杉浦教育委員　一緒にしてしまうと、総合教育会議の中でビジョンを策定したものに見える誤解もあるのかなと。

○舘政策推進部長　分けましょう。分けますが、１点で支えるみたいな感じではなくて、もっと四角形にさせていただく。もともとは総合計画があって学校教育ビジョンがあったわけですね。そこに、今回、教育大綱が付加されて、それらで最終的に３つからアクションプランをつくって実施していくということになってまいりますので、あとは、教育大綱と教育ビジョンは、上に大綱があって下にビジョンがあると、そういう位置関係になってきますので、それらの関係がきちっと、もうちょっとわかりやすいような形にさせていただきたいと思います。

　ですから、おそらく、左から右に流れるということがわかるような矢印的なものをちゃんとつくるということと、先ほどの青い三角形、学校教育ビジョンのところは三角形じゃないほうがいいですね。

○杉浦教育委員　台形などでもう少ししっかり支える。

○舘政策推進部長　台形がいいかもしれません。その辺は事務局にお任せいただければと思います。考え方はそういうことで、上の文章もそういうふうに書いてあるわけですので、そういうふうにさせていただきます。

○田中市長　関連して、全体的に大綱とか計画とかプラン、ビジョンですよね。総合教育会議だけ組織名がこれに載っている。これはちょっと何か違和感を感じる。総合計画、教育大綱、学校教育ビジョン、アクションプランと、この位置づけを示してある図としては、総合教育会議というふうに書いてあると、そうすると、教育委員会とかとの関係になってくるので、計画同士の体系図にしたほうがということであれば、もう教育大綱だけのほうがいいのかなと。

○舘政策推進部長　それは問題ないと思います。

○吉田教育監　皆さんのご議論をいただいて、修正を加えさせていただきます。

○舘政策推進部長　では、ここは総合教育会議を取ります。

　ほかはよろしいでしょうか、この図と１ページに関しまして。

○田中市長　もっと明るい色にしてもらったほうがいいと思います。

○舘政策推進部長　そうですね。黒はやめますね。

○田中市長　黒はちょっと将来が暗いような感じがする。

○舘政策推進部長　承知しました。

○杉浦教育委員　総合教育会議とつけられた意図が、今回新しく変わって総合教育会議が生まれて、その中で決めましたよというところをすごくクローズアップされたのかなと思ったので、その辺は特によろしいんでしょうか。

○舘政策推進部長　こちらの文章の中にそれを入れたほうが。

○葛西教育長　表紙に、四日市市教育大綱と書いてあるだけですので、ここのところに四日市市総合教育会議というのを入れるというのはどうでしょうか。

○杉浦教育委員　どこかにあったほうがいいのかなと。

○舘政策推進部長　表紙には、大綱は、教育委員会と協議して市長が定めるということになっている。ですから、中にはもちろん、総合教育会議の中で議論をしてということがきちっと書いてありますので、１ページ目の下の２段落目、「今回、本市において策定する四日市市教育大綱は、総合教育会議の協議を経て基本的な理念を示すものです」という表現があります。すみませんが、表紙はどうしても四日市市としなければいけません。

○葛西教育長　そうですね。

○舘政策推進部長　それでは、今ご指摘いただいた内容をきちっともう一回、色も含めまして訂正させていただきます。

　それから、右側のページですが、先ほどの下の段落で、やや課題があるというところにつきましては、２回やや課題があるというのが並列されてくるので、それを１つにまとめて、前段で知識を活用する力にとか、あるいは家庭学習での学習の定着、これらに課題があるとか、やや課題があるとか、そういった文章に変えさせていただいたらどうかと思いますが、よろしいでしょうか。

○松崎教育委員　２ページ目なんですけれども、これは個人的な好みの問題かもしれないんですが、一方という学力調査のことについて書かれた段落が７行あるんですけれども、何となくここが突出しているというか、浮いていて、その後すぐに、「全国平均を下回る傾向となっています」、その後に、「本市の子どもたちに」という、この間は１行つくってあるんですけれども、この間の関連性がちょっとどうかなと思いまして、調査の結果の内容をここに入れなければいけないのかなと。もし、その下の内容に関連性を持っていくのであれば、例えば、「これらを踏まえ本市の子どもたちに社会人になっても通用する」というふうに続けていくとか、目指す教育の中で、この調査の結果がどういうふうに目指

していくのかというのがちょっとわかりづらいかなという気がしました。

○加藤教育委員　関連して、私も事前に読んだときに、下４行の「本市の子どもたちに」の前に、こうした状況を踏まえというような言葉を入れていただいて、まとめ４行にするというふうに持っていったほうがおさまりはいいかなと。まさに松崎委員がおっしゃった、こうした状況を踏まえ本市の子どもたちに云々としたらどうかなと。

○舘政策推進部長　次の５本柱につながっていくわけですね。

○松崎教育委員　せっかく学力調査のことをこのように書くのであれば、やや課題があることという２つの問題点があるんですけれども、これに関して、具体的に支える５つの理念の中に、どういうふうにやっていこうという、実は一番ここが保護者としても気になっているところで、どうやって生かして具体的にやっていくのかというのが、いま一つ具体性が見られないかなという気がしました。

例えば、家庭学習での学習習慣の定着に課題があると問題として挙げているんですけれども、さて、一体どうするのか。もちろん家庭で生活習慣を身につけるとか、家庭の役割は大変重要とは書いてあるんですけれども、いま一つどうしていきたいのかというのが少し見えづらいかなと思ったんですけれども、それは今後、ビジョンの中でもっとやっていくのかもしれませんが。

○舘政策推進部長　そうですね。具体的なところはそちらにいくことになりますね。

○渡邉教育委員　それでいくと、４番の家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育のところがそれを受けているんですよね。

○松崎教育委員　その辺に溶け込ませるという感じでしょうか。

○舘政策推進部長　その具体のものがまだちょっとここでは見えていないので、連携するための具体的な事業はアクションプランであったり、ビジョンで書いたりというふうになっていくのかなと思います。

○加藤教育委員　あるいは、今、委員がおっしゃったようなところは、問題解決能力というところにぎゅっと集約されているんでしょうね。

○松崎教育委員　ちょっとここが唐突過ぎるかなという感じがしたものですから。

○加藤教育委員　確かにちょっと、言葉が飛んでいます。

○舘政策推進部長　２ページ目のところはまず、一番下にこうした状況を踏まえ的なつながりを持ちます。これはお願いいたします。

○杉浦教育委員　でも、大綱なので、課題を明確化、あとは、理念なのでいいのかなとい

う気はしました。

○舘政策推進部長　大綱ですので、完全に課題を列挙してそれでということではないので、理念がメインです。大きな状況だけを概括しているというのが２ページ目だと思うんですね。

　また後で戻っていただいても結構ですので、最初に渡邉先生のおっしゃったことも忘れるといけませんので、４の３のところの「本市独自の連携型小中一貫の充実」の、ここの意味合いをちょっとご説明いただけませんでしょうか。

○吉田教育監　私どもは、学校を設立する際に、小学校は小学校、中学校は中学校という形で設立をしておりますので、これが今の世の中の流れとして、連携して、長いスパンで子どもたちを育てていくという、そういう形です。そうすると、その中で、施設が分離しておりますので一体型ではございません。しかも、さらにそこへ幼稚園、保育園の流れも踏まえながらやっていくという小中学校としての一貫、連携型は本市独自というふうに私どもは考えておりますので、その中で、さらに、義務教育は中学校で終わってしまっていますが、現実としては、高校への進学が９８％ぐらいありますので、高校への流れというのも今、次第に流れが出てきております。特に、子どもの特質、特性のある子どもたちの情報を流していこうということで、特別支援的なことも考えて現実に動いておりますので、そういう意味からすると、本市独自のという言葉であってもいいんじゃないかなというふうには思うんですが。

○葛西教育長　学びの一体化ということを提案して、小学校、中学校が目標を１つ定めて、それに向かって学習指導、生徒指導をしっかりやっていこうとか、子どもの交流や、中学校教員が小学校へ行って授業をする、そういう取り組みを学びの一体化としている。中学校区で子どもたちを育てていこうという理念でやってきていますので、独自というふうにしてあると。

○舘政策推進部長　特に、ここは本市の特徴的な取り組みなので、あえて例示として挙げさせてもらっているということですね。

○吉田教育監　学びの一体化という表現も本当はしたかったんですけど、教職員や教育関係者はわかると思うんですが、わかりづらい表現だったので、もし入れるとしたら、括弧で学びの一体化というような言い方であってもいいかと思うんですが、その辺はご協議、どうしていくということをご指示いただければ、修正はさせていただきたいと思います。

○舘政策推進部長　先生としては、これを書いた意図がどうかということですよね。

○渡邉教育委員　それだけですからね。特に、ここでそこまで詳しく踏み込む場所ではないなという気もします。

○田中市長　どこの自治体でも、小中一貫教育というのは大なり小なりやっていると思うけれども、四日市市として、本市独自のというふうに言えるところまで今現在至っていると、教育委員会はそういうふうに判断しているということですね。

○吉田教育監　理想を言えば一体型ですけれども、それは今の状況ではなかなか難しいので、その中でできるだけ先進的にやらせていただいていると思っております。

○杉浦教育委員　今現在も独自だと思うんですが、ここに書くことによって、今後いろいろなプランを練っていく中で、さらにやっていくというような捉え方も可能なんですよね。現状まだ、さらに充実していくということなので、入っていていいのかなと。

○加藤教育委員　例えば、そういう中では、独自という言葉じゃなくて、本市の進める連携型小中一貫、それぐらいの言葉のほうがいいのかなと。

○吉田教育監　それはご協議いただければ。

○加藤教育委員　本市の進める連携型小中一貫教育という言葉のほうが。

○田中市長　そうですね。そのほうがいいかもしれんね。

○加藤教育委員　独自というと何かちょっと。

○田中市長　ひっかかる人もいるかもしれない。

○舘政策推進部長　よろしいでしょうか。ありがとうございます。

　まず、はじめにから目指す教育まで、１、２、３のあたりで再度、このあたりで何かご指摘いただけるところはございませんでしょうか。

○加藤教育委員　かなりすっきりとよくなったんじゃないですか。ありがとうございます。

○舘政策推進部長　よろしいでしょうか。

　それでは、あと順番に１つずつ行かせていただきます。

　４の１、社会人になっても通用する問題解決能力の養成の部分ではいかがでしょうか。

○加藤教育委員　２行目、存在しますと言い切っておるんですけど、将来のことですので、多く存在することが予想されますというぐらいの言葉のほうが謙虚かなと。しますと決めてしまうのもちょっとどうかなという気がしました。

○舘政策推進部長　将来生きていく社会はですね。

○加藤教育委員　社会は何々することが予想されますというふうに受けたほうがすっと入ってくるかなと感じます。

○舘政策推進部長　存在することが予想されます。

○加藤教育委員　そのためにこうすると。

○舘政策推進部長　よろしいでしょうか。

　あとはいかがでしょう、１番のところでございますが。

○渡邉教育委員　１のところで、また、「てにをは」の問題で恐縮なんですけど、下から２行目のところ、学校での学びを社会における困難をと、「を」が続きますから、ちょっと修正をしていただいたほうがいいかなと思うんですね。「学校での学びを通して」ですかね。「学びにより」ですかね。何かいい言葉に変えていただけたらどうかなと思います。学校での学びを通じてですかね。

○松崎教育委員　生かしてとかですか。

○渡邉教育委員　そうですね。

○舘政策推進部長　意図的にはどうかな。これは、述語の「つなげます」は、社会における困難を克服していく力へとつなげます。学びをつなげますにしたいんですよね。

○渡邉教育委員　そうしたいんですよね。

○舘政策推進部長　学びをつなげたいんですから、こっちの後ろの「を」を変えたら。

○加藤教育委員　そうですね。

○舘政策推進部長　そうですね。

○渡邉教育委員　学校での学びをもとにして、社会における困難を克服していく。このぐらいであればちょっとやわらかくなると思います。

○加藤教育委員　このようなからの３行で考えないと難しくなりませんか。

○杉浦教育委員　２つの文章があるので、どうしても「を」が２つ、成立する文章には。

○加藤教育委員　そう。だから、上の、このような力を発達段階に応じて身につけることにより。

○杉浦教育委員　促します。また、と。

○松崎教育委員　一旦切る。

○加藤教育委員　それも１つですね。

○杉浦教育委員　間違えた文章ではないと思います。

○舘政策推進部長　「促します」で切りましょうか。２つにしたらもうちょっといけるかもしれません。

○加藤教育委員　２文にしたらかなりすっきりしてきますよね。

○舘政策推進部長　はい。いろいろな言葉が入れられるかもしれませんね。趣旨は変えない形でいきます。そこはお任せください。

○田中市長　切るのもいいし、切らない場合は、渡邉先生がおっしゃったように、学校での学びを基礎にして、社会における困難を克服していく力につなげますというと、つながりが悪くなる。克服していく力を養成しますとか養うとかだったらいいと思う。ちょっと議論しておいてください。

○舘政策推進部長　わかりました。その辺のところは、趣旨を変えない形で少し、「を」の重なりをなくすようにいたします。

　では、１番は以上でよろしいでしょうか。

　では、２番の豊かな人間性と健やかな体の育成と、ここはいかがでしょうか。

○加藤教育委員　真ん中あたりの体力・運動能力や身体能力、このあたりはどれほど区別しているのかというのがちょっとありました。

　例えば、体格が前におりますので、運動能力や身体能力などのいわゆる体力は低下傾向にあるとか、さらりとやってもらったほうが。体力というと、運動能力も身体能力も全部含めて体力という概念もありますし、この区別がちょっとあやふやになってくるので、これは、指導課長、どうですか。

○廣瀬指導課長　そうですね、ちょっと不明確ですね。

○加藤教育委員　何かぐちゃぐちゃとしているような気がしていますので、言葉の定義をきちっとしてほしい。

○舘政策推進部長　運動能力と身体能力の差がちょっとわからないですね。

○加藤教育委員　上に体格ときておるので、体格に対する言葉だったら体力ですので、これで対にするべきと思うんですよね。

　そうなったときに、下から３行目あたりのところ、自然体験、社会体験、文化体験ときて、体育のことがあまり出てこないんです。だから、スポーツ体験ぐらいをどこかに少し入れてもらうのか、体を動かす体験のようなものがないと、体育も、健やかな体を育成する場面が少なくなるかな。ましてや、私も現に学力向上のために体育に力を入れましょうとお願いしておるところなので、体力が向上する活動体験を言葉として入れていただくと、よし、四日市もいろいろ体育をやるぞという意気込みが感じられると思うんですけど。

○舘政策推進部長　もちろんスポーツ施設を整備していきます。

○加藤教育委員　スポーツ体験というありきたりの言葉でもいいのかわかりませんが、一

言入れるとどうかなという意見です。

○田中市長　必要ですね。

○舘政策推進部長　では、スポーツというような言葉を入れさせていただきますね。

運動能力と身体能力というあたりは、どちらでもいいでしょうか。

○田中市長　だから、もう体力だけでいいんですよね。

○加藤教育委員　ここであまり運動することも後で響いてきませんので、この文章の中では、もう体力とさらりと。

○杉浦教育委員　前ページの３番のところの体力、運動能力との整合かなと。

○加藤教育委員　これは国が使っていることと思いますが。

○杉浦教育委員　そうですよね。その辺との一致なのかなというふうに思っていたんですが。

○加藤教育委員　ここには身体能力はないでしょう。

○杉浦教育委員　それはないです。

○舘政策推進部長　身体能力は要らない気がしますね。

○葛西教育長　そうですね。身体能力を取ったほうがすっきりしますね。

○舘政策推進部長　では、これを取りましょう。そういう言葉があるのであれば、体力、運動能力は低下傾向にある。スポーツ体験というような言葉を一番下の段落に入れさせていただく。先ほどの「育くむ」の「く」は取らせていただきます。

あとはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、右上の３番です。先ほどいただいたご意見は直すとして、本市の進める連携型小中一貫教育、一番上の段落を１字落とします。

○加藤教育委員　小さいことですけど、４行目の、こうしたキャリア教育の充実やという言葉ですが、例えば、キャリア教育の充実とともに、という言葉だと感じが変わってきますかね。充実やという並列できておるんですが、これもやりますとともに、あと云々と読んでいったほうが。上に相当文章をつけておるんですよね。

○渡邉教育委員　そうですね。それを受けておるわけですからね。

○加藤教育委員　だから、こうしたキャリア教育の充実やとすると軽いので、とともにと後ろの文章に続くように。

○田中市長　上の６行を受けた形で、ちょっと重みをそこへ乗せてね。

○加藤教育委員　それを強調できますので。

○舘政策推進部長　わかりました。

よろしいでしょうか。

それでは、その下、４番をよろしくお願いいたします。

○加藤教育委員　これは質問です。一番最後のところ、地域社会全体の横の連携という、全体の横という言葉は何を指すのかというのが、ちょっと私はイメージがしにくかったんですが、何かこれは意図があるんですか。全体の横を取っても、地域社会の連携とあっても、何か違いがあるのかないのか。最近こういう言葉を使われるんですかね。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー　これは、国の施策の中で、学校を地域社会の核として位置づけるという、そういう方針の中で、単に地域社会としての一部ではなく、地域社会を学校が全体の核となるという、そういう意図が文章にはあって、あえてというところなんですが。

○舘政策推進部長　地域社会全体という言葉がそこに使われてるんですね。

○杉浦教育委員　地域社会全体の連携ですか。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー　学校を地域社会の核とするという案です。

○加藤教育委員　横というのは、学校と地域社会とともにという意味ですね。そういう意味ですかね。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー　そうですね。地域社会同士の全体ということではなくて、地域社会単位での全体という意味で、確かにそこは誤解を招く表現かなと思います。委員がおっしゃるように、全体まで入ると、地域社会と地域社会の連携を図るというような、そういうふうなニュアンスにとられるおそれがあるので、おっしゃる内容では確かにちょっと、全体という言葉が誤解を招くということも考えられるかなと思います。

○舘政策推進部長　この地域社会というのは、さまざまな地域社会を構成する自治会であったり、いろんな団体であったりということですね。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー　そうですね。表現の意図は、地域社会の外へ出るものではないので、地域社会全体となると、地域社会と地域社会をつなぐというふうにもとられかねますので、ご指摘のように、削除するのもいいのかなと思われます。

○田中市長　だから、そういうふうにとられないようにということであれば、横のという

のを抜けばいいわけだね。地域社会全体の連携なら。

○加藤教育委員　これに対して縦の連携は何なのかと。じゃあ、横を取ってもらいましょうか。

○舘政策推進部長　横のを取ります。

○田中市長　そうしたら、３つ目の段落のところの３行目の、子どもたちの学習機会をひとしく確保するためにはというのは、これは学校を含んでじゃなくて、家庭での学習機会という意味やね。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー　そうですね。全ての子どもたちが学ぶ、要は、所得等の不公平というか、機会の均等を保たれるように、学校も家庭も両方含んでいます。福祉というのはそういう意図です。

○舘政策推進部長　ほかはよろしいでしょうか。

○杉浦教育委員　今のご指摘のところ、ひとしく確保という、ひとしくという言葉と、例えば学習機会を保障するという言葉ではニュアンスは違ってくる気がしますが、福祉の観点から、ひとしくということは、Ａさん、Ｂさん、Ｃさん、みんな一緒というふうな捉え方もできてしまうかと思うんですが、その辺はどうでしょうか。ひとしく確保という言葉が使われるんですか。

○葛西教育長　確かに先生のおっしゃるとおりで、文科省の第２期教育振興基本計画では、意欲のある全ての者への学習機会の確保という、そういう言葉が使われています。ですから、ここでひとしくというのがやはりどういう意味なのかなということで議論になることがありますので、これはもう学習機会を確保するというのでもいいのではないかなと思います。

○田中市長　でも、これは機会均等という意味ですね。そういう意味で表現したわけですね。

○葛西教育長　そうです。機会均等ということで入れたんですが、それがひとしくとなってくると。

○田中市長　均等ということは、ひとしくということではないですか。

○松崎教育委員　多かれ少なかれ与えるという意味ですよね。全員に同じだけという意味じゃないんですよね。

○舘政策推進部長　同じだけというか、差がそれぞれの家庭の事情によってある。特に、家庭での、学習塾に行ける子と行けない子があるという中で、実際にはひとしく一緒には

できませんけれども、少しでも差を埋めていくことが必要だということですよね。

○杉浦教育委員　学習機会の均等を図るにはということですかね。

○加藤教育委員　今まさにそのことを言っておるんですもんね、機会均等なので。そのまま使うかな。

○杉浦教育委員　下手に優しくすると、いろいろな意味に捉えられてしまうリスクが発生するので。

○田中市長　よく使われている言葉はもうそのまま使えばいいのではないでしょうか。今、杉浦先生がおっしゃったような。

○舘政策推進部長　学習機会の均等を図るためには。

○渡邉教育委員　これも「の」が続きますので、子どもたちに学習機会の均等を確保するというんですかね。

○舘政策推進部長　では、そういうふうにさせていただきます。

よろしいでしょうか。

では、めくっていただいて、５番をよろしくお願いいたします。

○加藤教育委員　これも５番の下から４行、特に３行目あたりからがまとめになりますよね。だから、また、新たに芽生えつつある文化力や産業観光を生かしたまちづくりについても学び云々というんですけど、この後の文章は、この上全部を受けてまとめに私はとったんです。したがって、またから今読んだところまでは、例えば第２段落の後に、先人の志に触れることができます、また、これについても学ぶことができます、と上でさらりと言ってしまう、新しい観光産業についてもありますと。ずっと来て、最後にまとめとして、例えばこのように、本市のさまざまな魅力やというふうにしないと、終わり３行がどうも。

○田中市長　違和感がありますね。

○加藤教育委員　新しい観光産業のようなものがかぶってしまってぼけてしまうような気もしますので、１つの例ですけど、まとめをすっきりと言いたいなという気がしますので、またお知恵を下さい。

○田中市長　そうですね。まとめの中にこれが少し入っているといいですね。ただ、１つ目、２つ目、３つ目の段落は、これまでの四日市の歴史の中の特徴なんですよね。この芽生えつつある文化力というのは、例えば全国ファミリー音楽コンクールとか、産業観光というのは夜景クルーズとかということですから。

○加藤教育委員　そうしたら、わずか２行でも段落として小段落にしてしまえばいいです

よね。

○田中市長　分けたほうがいいかなと思います。

○加藤教育委員　そうしてください。私もクルーズの体験をさせてもらいましたけど、よかったです。

○舘政策推進部長　分けます。１段落を起こします。

○加藤教育委員　３行でまとめていただくと。

○舘政策推進部長　順番はこの形でいかせてもらいます。

○加藤教育委員　だから、このようにぐらいの、つなぎの言葉はつけてもらう。四日市ならではということがより明確になると。

○田中市長　２行だと分量的にバランスが悪いので、段落を分けた場合は、もうちょっと増やしたほうがいいかなと思う。

○舘政策推進部長　そうですね。ちょっと例示を入れたほうがいいかもしれませんね。

○加藤教育委員　スペース的には一番上でもう少し削ってくるかな。

○田中市長　一番上がちょっと長いという印象はありますね。

○加藤教育委員　これからの四日市ですので。

○舘政策推進部長　上を少しすっきりした分、先ほどの２行を３、４行にさせていただいて、具体のことを少し。

○加藤教育委員　これからの思いも込めて書いてもらって、ひとつ。

○舘政策推進部長　事務局でまた修正をさせていただきます。

よろしいでしょうか。

最後の実現をするためにのところはいかがでしょうか。

○渡邉教育委員　アクションプランのことがここに書いていないんですが、それはいいのかという確認です。これを実現していくために、今後、次々とアクションプランをつくってやっていくんだというようなことを何かちょっと上手に表現していただくとつながるんじゃないかと思うんですが、どうですか。

○舘政策推進部長　これが前と重なるんですよね。

○松崎教育委員　３行目から３、４、５がもう一度繰り返しになってしまって、実現するためのことを、あえてここに入れる必要もないかなと思うので。

○舘政策推進部長　実は重なっていますね。

○松崎教育委員　ならば、もう少し、渡邉先生の言うように、もう一つ大事なことだけ入

れていくとか。

○渡邉教育委員　大事なことをここで最後に入れたいなと思いますけど。

○舘政策推進部長　あえて重なってもいいから入れるというかですね。

　下から２段落目のところにもうそのまま、具体的な施策として位置づけますというところにもアクションプランの表現を入れさせていただいて、当然、はじめにとも重なります、これは重要なところですので。入れましょうか。

○田中市長　はじめというのは、はじめにのところね。

○舘政策推進部長　どうしてもこの体系を説明しておりますので。実現するためにはこのアクションプランをつなげるわけですので。

○加藤教育委員　そういう意味で、１ページのはじめにの部分の上から４段目ぐらいの、今回、本市において策定する四日市市教育大綱はの説明の文章で、総合教育会議の協議を経て基本的な理念を示すものとしておるんですね。今見てもらっている５番のところで、教育大綱の５つの理念は、これからの本市の教育の方向性を示すものですと。ここがちょっと私の中で合ってこないんですけど。

○渡邉教育委員　そうですね。教育大綱は理念であると。

○加藤教育委員　ここはちょっと答えがないんですけど、基本的な理念を示すものが教育大綱です。また５番で、教育大綱の５つの理念は方向性を示すものですと、こう受けてくるんですが、何かちょっと違和感がありませんか。私だけかもしれないですが。

○杉浦教育委員　使っている言葉がちょっと違うと。

○舘政策推進部長　理念に基づきやっていきますというような感じかもわからないですね。

○加藤教育委員　理念を示すものが大綱です。その理念は５つつくったんです。じゃあ、ここの最後で言うときには、この理念をやっていくという、今言われたように、あまり方向性という言葉はないほうがいいんですよね、という感じもします。

○田中市長　ちょっと曖昧になってしまう。

○加藤教育委員　だから、ここでまた揺れてしまうので。

○田中市長　方向性じゃなくて、もうしっかりした理念としての体系だと。

○加藤教育委員　理念そのものと。

○松崎教育委員　もう６行ぐらい要らないんじゃないですか。着実に実現するためにからを膨らませていったほうがいいんじゃないでしょうか。

○加藤教育委員　そうなんですよね。ここは、教育大綱の理念を実現するためにこうしま

すということを書いてあるんですよね。

○杉浦教育委員　はじめにのところ、協議を得たところではあるんですが、重なる部分もあるということでもありますので、例えばはじめにというところでは、アクションプランというものもあるというところまでの記述に抑えておいて、この四日市市学力向上アクションプランはここに出さずに、理念を実現していくためにアクションプランというものを今後つくっていくと。その中で、まずは四日市の学力向上アクションプランを策定しというのは、丸ごと後ろに持っていく。ここだと、理念を実現するためにの３行目の書き出しが、学力を問題解決能力と関連させて位置づけというところとも補完することができると思うので、ここのはじめにと、５の理念を実現するためにを、アクションプランを軸にすみ分けをしてみたらどうかなとは思いますね。

○舘政策推進部長　はじめにのところは、一般的なアクションプランというのをイメージしておいてとめておくと。概念を示すと、位置づけとかを。実現のところには、四日市市学力向上アクションプランをきちっと前に書いてあることを載せて、それで実現していきますという形でどうでしょうか。

○田中市長　その場合は、まずはということだね、学力向上アクションプランは。

○舘政策推進部長　そうですね。最後のところに、５のところで、まずは学力向上アクションプランを策定して、それでこの理念を実現していくというような表現で最後を締めると。初めは体系を示しますので、一般的なアクションプランというような表現に。こういう総合計画があり、総合教育会議、ビジョンがあって、それでアクションプランにつなげるみたいな形にしておくと。

○加藤教育委員　だから、アクションプランが具体化のための１つの手だてという表現で５へ持っていくということですね。

○舘政策推進部長　５では、まずは学力向上アクションプラン。

○加藤教育委員　まずはね。

○杉浦教育委員　まずはが一番最後なんですね。ただ、理念を実現していくためのアクションプランなので、それ以外もたくさんあるので、まず初めに、実現するためにアクションプランがあるというところの流れから、最後にまずはということです。

○加藤教育委員　この教育大綱は、当面５年と言いましたよね。アクションプランはどれだけやるんですかという疑問に対しては、どう答えていきますか。

○舘政策推進部長　どれだけやるかというのは期間ですか。

○加藤教育委員　達成するまでですか。

○舘政策推進部長　今のところ、アクションプランの期間って決めていませんね。ビジョンはどうですか。

○吉田教育監　５年間です。

○舘政策推進部長　５年ですね。ですから、それの実施とすればそれ以内ですね。

○加藤教育委員　書き込むかはともかくとして、ちょっとこれも具体的に想定しておいたほうがいいですよね。アクションプランはどれだけあるのか、学力向上についてのアクションプランをと。

○杉浦教育委員　理念を実現するに当たって、取り組むべき課題に応じたアクションプランをつくっていくというようなところは入れなくていいんですか。入れますよね。

○加藤教育委員　まずはアクションプランをつくってやっていきますと。それも学力向上でやっていくんですまではうたってもらってもいいわけでしょう。

○杉浦教育委員　もちろんそうです。ただ、それ以外のところも、幾つ出てくるのかという質問に対して、数ではないんですが、この理念を実現していくに当たって、重要な課題や取り組むべき優先的な課題が出てきたときには、都度アクションプランというのを立てていきますよというような見せ方もあるのかなと。初めから３つです、４つですというのはなかなか難しいので。

○加藤教育委員　適宜評価をしながら。

○舘政策推進部長　教育ビジョンそのものも、ある意味、そこに施策はいろいろ書き込みますので、ここにもあるように、最後の５ページのように、具体的な施策として位置づけてやっていきますと。特に重要な早急にやらんならんことを、今、学力向上だということなので学力向上アクションプランということで、さらに、教育ビジョンの中でも、あるいは大綱の中でもそれをやるという中で、学力向上のプランをアクションとして起こすと、すぐに、そんなイメージだと思うんですね。

○葛西教育長　考え方の基本としては、理念が５つあるわけですから、この理念を実現するためにアクションプランという考え方ですよね。今回は、まず、１についてアクションプランを起こしていこうということにして整理はできるのかなと。１の社会人になっても通用する問題解決能力の養成、これを学力と関連づけて位置づけたわけですから、この１をアクションプランで実現していこうと。

その次は、２、３、４、５、特に子どもの姿としてあらわれてくるのは、２の豊かな人

間性と健やかな体の育成というところが子どもの姿としてあらわれてくるわけですので、ここが次に考えていくべきことだろうなと思われるわけですけれども、ただ、四日市として、都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進、これが大きな目玉ですので、じゃあ、次のプランではこれをやっていこうということにこの場でなれば、ここに力を入れていくという、そういうようなこともできるかなというようなことを思います。

○加藤教育委員　あるいは、統合したような形でのアクションプランもございますよね。仮に２と３をまとめてやっていく。だから、あるキャッチフレーズのもとにやって、結果として２、３、４をカバーしていくようなこともあるでしょうから、１個ずつ、１番でこれに対応するというものではないんでしょうね。

当然、今回の学力向上の中でも、体力もやってもらうことになりますし、いろんなことをいろんな方面から学力向上に取り組みますから、そのやり方、手法は、四日市ならではのものを使ってやりましょうというのもありでしょうから、やはり１に対応して１つ、２に対応して１つじゃなく、行動計画は適宜、本当に３本の矢を放つようにぱっとタイムリーにやっていくと。まず１発目はこれでいきますというふうに私は捉えております。

○舘政策推進部長　そうしましたら、ちょっと戻っていただきまして、はじめにのところの最後の３行は、ここは、社会人になっても通用する問題解決能力を育むための学力向上アクションプランを策定しと、非常に具体的にその部分を書いておりますが、ここは単純に、それぞれアクションプランをつくって取り組みを進めますぐらいのところにさせていただいて、問題解決能力を育むための学力向上アクションプランをつくるというのを、最後の５のところに具体的に書かせていただいていくということでよろしいですか。

○田中市長　その上の行の、ダブっているところはどうか。

○舘政策推進部長　ここは、下の図の体系を示しているところなのでいいのかなと思いますが。

○田中市長　理念を実現するために位置づけますというところは。

○舘政策推進部長　位置づけますというよりは、このビジョンをもとに進めていきますみたいな形にしないといけないと思いますね。

○田中市長　位置づけは、もう初めのところで位置づけしておるので。

○舘政策推進部長　教育ビジョンで進めていきますし、さらに、学力向上のところについては、アクションプランを定め、進めていきますと。

○田中市長　２つ目の段落と最後の段落はそのまま残すということだよね。

○舘政策推進部長　最後の段落はもちろん残しますが、２つ目の段落は、先ほどもどうなのかというお話がありましたね。

○渡邉教育委員　だから、これは、学力向上アクションプランをつくる必要性みたいなことにつなげる枕言葉になりますよね。ある程度生かせるんですよね。

○舘政策推進部長　そうですね。学力向上の。

○田中市長　だから、５つの理念の要約したものとして、教育大綱の５つの理念は、３、４、５、６行目ですと。この理念を実現するためにと、さっきの内容につなげていくような。

○杉浦教育委員　ある程度の繰り返しもあったほうがわかりやすいと思う。

○加藤教育委員　これはくどくてもいいですよね、やることを宣言するわけですから。それも市長の責任で。

○舘政策推進部長　理念をもう一回おさらいするような形で書くと。実現していくために教育ビジョンを実施していくし、それから、学力向上アクションプランを策定して実施していきますということをここできちっとうたう。最後のところは評価をしますと。

そういうふうに最終まとめさせていただきます。

どうもありがとうございました。今回いただいたご意見をもとにいたしまして、事務局で最終修正をさせていただきまして、完成版とさせていただきたいと思います。

そのほか、前回の大綱を広く周知すべきというご意見もいただいておりましたので、こういう本冊とともにパンフレット的なものも今後作成していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

この際、主催者である市長から一言お願いをしたいと思います。

○田中市長　大変熱の入った議論をしていただいて、無事四日市の教育大綱、大体の完成のめどが立ったというふうに思っています。非常に中身も、私としては精緻な中身に集約していただいたし、これはもうどこへ出しても恥ずかしくない教育大綱だというふうに自分も思っておりますけれども、今日いただいたご意見については、事務局で修正作業をきちんといたしまして、その後、完成版というふうにさせていただきたいと思います。

完成したときには、私と教育長とで記者会見の場を持って、本市の独自色が非常に豊かな教育大綱を策定したということを公表させていただいて、市民の皆さんに知っていただくと、そういうことをさせてもらいたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

それでは、教育大綱につきましてはこれで締めさせていただきます。

３　学力向上のための懇談会「提言書」について

○舘政策推進部長　それでは、事項書に戻っていただきまして、３番、学力向上のための懇談会の提言書に入ります。

今回、懇談会から提言書が提出されましたので、資料につきまして、まず、事務局から説明をしてください。

○稲毛教育総務課課付主幹　では、お手元の資料、四日市市の学力向上について（提言）という冊子をご覧ください。

平成２７年１０月２１日、四日市市学力向上のための懇談会よりご提出いただいたものとなります。

表紙を開いていただきますと、目次ということで掲載されておりますが、１ページにはじめに、そして、経過というところが記載されておりますけれども、この懇談会は、ご存じのとおり、この総合教育会議の中で学力向上をテーマの１つとして取り上げてはどうかというご意見をもとにして、その後、有識者による懇談会を計４回ほど開催させていただきました。具体的な懇談会の委員の皆様のお名前、そして、懇談会の４回の概要につきましては、後半部分、６ページ、７ページに掲載しておりますが、ここは割愛させていただきます。

合計４回の懇談会によりまして、四日市市の中で、特に学力向上に向けてどのような手法、あるいは目的、対策をとっていけばよいかということを非常にご熱心にご懇談いただきました。座長の加藤委員から、また後ほど補足はいただきますけれども、まずは、懇談会からいただいた提言の内容について、簡単に朗読だけさせていただきます。

２ページをご覧ください。

１、目的、どのような力を育むか。

社会人になっても通用する問題解決能力。

子どもたちが将来社会人となって夢や志を実現するためには、実社会において通用する生きる力を身につけることが必要である。社会人になったときに必要とされる力は、主体的に問題を解決できる能力であって、学習によって得た知識と、その知識を活用するための力が必要となる。解決の道筋が明らかでない問題を解決する力は、何度も問題解決を経

験することにより育成され、知識を問題解決のために活用することが可能となる。四日市市の目指す問題解決能力の養成にあっては、子どもたちに問題解決を経験させること、知識を実生活に活用させることを主眼に置いた取り組みが行われるよう提言する。

２、手法、どのような学び方で育むか。

子どもたちの主体性を重視した学び。

子どもたちが主体的に問題を解決できる能力を身につけるためには、自分の考えや意見をきちんと表現し、他者とつながることが必要となる。また、子どもたちは、職業体験や自分と社会とのつながりを意識させる経験を積むことにより、将来の夢や志を抱く。そして、その実現のために学ぶ意欲を持ち、みずから学ぶことに喜びを感じ、主体的に学び続けることができるようになる。

子どもたちが主体的に学ぶためには、表現力を磨くための取り組みや、何のために学ぶのか、自分はどうなりたいかという考えをしっかり持つための体験活動等のキャリア教育を充実させていくことが必要である。そして、体験活動等の実施に当たっては、四日市版コミュニティスクールを基盤とするなど、地域の教育力を活用することを提言する。

この手法のための施策の１として、読解力、要約力、表現力を磨くための取り組みをご提言いただいております。

四日市市では、小学校、中学校それぞれ３校を読書活動推進校に指定し、学習活動への読書の活用の推進研究を行っている。読書活動推進校は、その取り組みの１つとして、読んだ本の内容や感想などをまとめて発表する読書後の１分間スピーチを行っている。

読書後の１分間スピーチは、お勧めの本を友達に紹介することで読書に対する興味、関心を高めるという狙いもあるが、読んだ内容について考え、要約し、話すという一連の行為を通じて、子どもたちの思考力を高める取り組みとして位置づけられている。

さらに、この取り組みを、自分の考えや思いを表現する、伝えるという点に着目し、子どもたちが将来社会人になったときに必要となる、自分で理解しているだけでなく、他人に伝える（理解させる）ことができる能力を養うことを重視するものとして発展させることが必要である。また、子どもの発達段階に応じて、話す時間を長くする、一方的に話す、聞くという取り組みから内容について議論する取り組みに発展させるなど、読解、理解、要約、思考、表現、話すというプロセスを反復継続させる、より学習効果の高い充実した取り組みとして実践されるよう提言する。

手法のための施策２、学ぶことと将来とのつながりを意識したキャリア教育。

四日市市では、自然、文化、芸術、地域の歴史、物づくりなど、子どもたちの発達段階に応じてさまざまな体験活動を行っている。実用性、有用性という価値判断を持つようになる小学校高学年から、実社会での物づくり体験や職場体験などの将来の自分の姿や自分と社会とのつながりを考えるきっかけとなる体験をさせていく必要がある。

四日市市には、産業、文化、環境などキャリア教育に生かせる資源がたくさんある。四日市の特長を生かした体験活動を通じ、子どもたちが学ぶことの必要性や、地域社会と自分とのつながりを感じることができるような取り組みとして実践されるよう提言する。そのために、教師が四日市市や地域について詳しく知り、学習活動に活用することも必要となる。

また、生きる力を育むという観点からは、全ての教育活動がキャリア教育を構成するものであるから、日々の教科においても、その内容が社会や世の中とどうつながっているのかについて子どもたちに伝えなければならない。キャリア教育として日々の授業をしっかり行うことについても提言する。

３番、対象、どのような内容の教育を進めるべきか。

時代の変化に対応した教育。

時代の流れ、社会の変化に対応して、子どもたちが学ぶべき事柄も変容していく。現在の子どもたちが社会人になるころには、仕事の内容や求められる知識も大きく変わっていることが予想される。今の時代に子どもたちに何を学ばせるかについて、十分な検討が必要である。

時代の変化に対応した教育を行うためには、教育におけるＩＣＴの活用など、教育環境の整備も積極的に進める必要があり、現在、将来を見据えた効果的な教育への取り組みを行うべきである。

教師がみずから、今、世の中で何が起こっているのかについて学び、授業に生かしていく取り組みが重要であることを踏まえ、教師の多忙化が問題となっている現状においては、教員の研修カリキュラムの見直しも検討するなど、四日市市全体で教育を支えていく取り組みとして位置づけるよう提言する。

３、対象のための施策１、社会のグローバル化を見据えた英語教育。

四日市市では、ＡＬＴなど英語教育に重点的に取り組み、一定の教育効果を上げているが、社会のグローバル化を見据え、学力としての英語、コミュニケーションのツールとしての英語という２つの面から、英語教育のさらなる充実を図る必要がある。

語学という習得には長い時間と努力を必要とする教科については、子どもたちが英語に苦手意識を抱いてしまうことのないよう、楽しく興味を持つことができる授業づくりを行うことが重要である。

また、多文化共生都市である四日市の特長を生かし、子どもたちが外国の文化に触れ、外国のことを知りたいと思い、外国の人々とコミュニケーションをとるために、外国語を話せるようになりたいと思うような狙いを持った取り組みが行われるよう提言する。

対象のための施策２、四日市の特長を生かした教育。

子どもたちに実社会に即した問題解決能力を身につけさせるためには、我々が暮らすまち四日市を題材に取り上げ、教育に四日市らしさを打ち出すことが重要である。

四日市市では、小学校３、４年生の社会科副読本として、「のびゆく四日市」を毎年発行している。また、四日市公害と環境未来館、市立博物館、プラネタリウム、久留倍官衙遺跡などの地域資源を活用した教育や、夏休みの自由研究、社会科展、科学展等の取り組みから、子どもたちは四日市について学ぶことができる。

これらの取り組みをさらに効果的なものとするためには、それぞれが連携し、互いの取り組みを補完、発展させることが必要である。また、産官学民の４者が連携して教育にかかわっていくことで教育現場の負担を軽減し、オール四日市での教育を行う仕組みづくりを提言する。

将来的には、学校図書館等を活用し、四日市ならではの教育の情報発信を行う取り組みや、さらに、四日市という地域の枠を超え、四日市と他の地域とのつながりを学ぶ取り組みへと発展していくことを提言する。

以上です。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー　お手元にアクションプランに関する資料が２枚、学力向上アクションプランの策定に向けてというＡ４の資料と、それから、カラーのＡ３、以前もお出ししたことがありますが、構想（案）というものをお配りしております。これについて簡単にご説明させていただきます。

まず、Ａ４の四日市市学力向上アクションプランの策定に向けてでございますが、まず、１番目といたしまして、今後の策定までの流れをご説明しております。

先ほどご説明いただきました提言書を懇談会からいただきました。そして、本日第３回総合教育会議で提言書について協議いただきまして、事務局で原案をつくらせていただきまして、また日程はこれから調整させていただきますが、総合教育会議で原案をお示しさ

せていただいて、１月を目途に学力向上アクションプランとして完成ということを策定までのスケジュールとさせていただいております。

それから、具体的な構想案でございますが、これはＡ３の資料とも関連させていただきますが、まず、子どもたちにつけたい力を社会人になっても通用する問題解決能力と、これを学力向上アクションプランの目的と位置づけさせていただきまして、提言書から手法と対象について、手法につきましては、子どもたちの主体性を重視した学び、対象については、時代の変化に対応した教育というところの提言書をいただきました。

それを踏まえまして、Ａ３の資料の２つのアクションということで、学びの質の向上、主にソフト面のプラン、それから学びの環境の充実、主にハード面のプランということで、アクションプランへの施策としてご検討いただくということになります。

そして、３番目でございますが、策定後の対応といたしまして、ソフト面のプランは、これから、現在策定しております四日市市学校教育ビジョンの施策の重点項目として位置づけさせていただければと思っております。それから、ハード面につきましては、市の総合計画の推進計画と連動して計画を進めていくというような対応をさせていただければと思っております。

以上です。よろしくお願いいたします。

○舘政策推進部長　ありがとうございます。

ここで、懇談会の座長を務められた加藤委員から一言ご報告をお願いします。

○加藤教育委員　大役を仰せつかりまして、本当に始まるまではいろいろ悩んだんですが、委員の皆さんが非常に多様なご経験と豊かな発想をお持ちの方がみえまして、私も座長であることを忘れて、本当に示唆に富むお話を大変興味深く聞かせていただいたというのが全体的な印象です。

その中で、話のきっかけとして、事務局から、今、市でやっている取り組みを問題提起として、幾つか紹介をいただいたんですけれども、おおむね委員の皆さんは、今まで四日市が取り組んでいただいていることについて、非常に好意的な評価、よくやっておるというお声をたくさんいただいて、私も四日市にかかわる者として、ありがたいことやなと思いましたし、本当にうれしく思いました。

そういう意味では、今まで取り組んでいる内容を一度ここでちょっと立ちどまって、リセットはしませんが、効果をもう一度考え直しながら、さらに、横の連携をとっていくことで、今まで単独は立派なものがいくつもあるんですけど、それをもっと総合的に組み合

わすとすごいものができそうだなという印象を持っていますので、それは、今の一番最後の５ページあたりでもちょっと述べてもらってありますけど、このあたりは重要なポイントになってくるのかなというふうに思います。

それと、当初、学力向上という、学力とは何かという議論を始めたんですが、そもそも学力というのはきちっとした定義がないようですし、四日市もそれでやっていくにはちょっと話が大き過ぎるということで、いわゆる問題解決能力という学力に絞っていろいろ議論をしてまいりました。だから、四日市が言う学力は、当面、問題解決能力に代表される学力を指すんだという捉え方をしていくのがいいのかなという感じがします。

そんな中で、今の子どもたちが将来、１０年後、２０年先の将来、本当に何を学んでいけばいいのかというようなお話で、ある方の印象的な言葉では、この２０年後にはもう今の仕事の６割は変わっているというようなお話もございましたし、先生方もやっぱり時代の変化をつかんで、そういう意味での勉強も要りますよねと。だから、総合教育センターでの研修もそういう話をやっていただくし、四日市自身をもっと先生方にも知っていただきたいというようなこと。「のびゆく四日市」を見せていただいて、そこに書いてあることを質問されても、私らもわからないことがありました次第でして、「のびゆく四日市」は本当にいい本ですと好評をいただきました。

それと、英語教育については、小中の時代に英語が嫌いにならないような取り組みをたくさんやってくださいと。そして、将来、外国の文化に興味を持った生徒が出てくれば、当然道具としての英語が要りますし、社会に出て必要な英語というのを学ぶ意欲もできますので、意欲をつなげるような小中学校での英語教育というのは大事かなというふうなことが印象に残っています。

細かいところは先ほど朗読いただいたとおりでございますけど、いよいよ、今、長谷川さんからも説明がございましたように、せっかく懇談会で幾つかの提言をいただきましたので、これを本当にアクションプランとして、特に、事務局でできること、学校の協力を得てやっていくこと、そのあたりを明確に分けながら、具体的には、例えば担当課長会議は必要に応じて開いていただきながら進めていただくとより具体化するのかなという感じがしましたので、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。本当に力の無さは済みませんが、委員の皆さんのおかげで助かって何とか終えることができ、このような提言ができました。ありがとうございました。

○舘政策推進部長　どうもありがとうございました。座長、お疲れさまでございました。

こういうことで、今、座長からも少し補足もいただきましたけれども、この提言書に基づきまして、今後、学力向上アクションプラン、これを市として作成してまいります。

先ほど、スケジュール間はＡ４の１枚のペーパーで事務局が説明いたしましたけれども、次回の総合教育会議で原案をお示しさせていただきますが、この際、アクションプランに盛り込んでいくべきことであるとか、提言書をどのようにして盛り込んでいくかといったようなところあたり、それから、どの事項をアクションプランに盛り込むべきであるかといったようなところあたりで、何かこの際、ご意見がございましたらお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

○渡邉教育委員　１ページのところに、目的、手法、対象を非常に明確に書いていただいて、どのような力というのは何だということも非常にはっきりと問題解決能力というふうに位置づけていただいた、非常にすっきりしたいい報告書、アクションプランになりそうだというようなこと、ほぼ全体的に手を加えるところはもうあまりないような気がします。あとは、「てにをは」程度というような気がしました。

○舘政策推進部長　これをもとにアクションプランをということですね。他はいかがでしょう。

○田中市長　ひとつ確認ですけど、問題解決能力と学力の位置づけのところで、さっき教育大綱のところにも出てきたんですけれども、社会人になってから生きる力、問題解決能力という、それの基礎になるものが学力であって、その学力は、知識、それから、知識を応用する力、そういうもので構成されている、それが学力です。その学力をもとに、子どもたちが社会人になったときに、学力を生かしてさまざまな問題を解決していくと、そういう位置づけでよかったですかね。

○葛西教育長　そのように理解しています。私自身は、将来、実社会で生きていく力、その基礎となるものが学校での学力だと。ただ、それは今までの教科の、それこそ狭いものではなくて、社会に開かれたという、そういう視点を大事にした学習をしていかなきゃならないというふうな捉え方をしています。

○田中市長　だから、オール四日市で育む学力ということなんだけどね。

○葛西教育長　そうです。

○加藤教育委員　非常に広義なんですね。体験から得られる力も学力と称するわけですので。

○田中市長　四日市市としてのそういう位置づけだと。ほかの自治体とは違うかもしれんけれども、四日市市としてはそうだと。

○加藤教育委員　我々はこう捉えるということでね。

○杉浦教育委員　先ほどの教育大綱の中でも、四日市が目指している力、問題解決力や学力というのはどうなんだとはっきりと定義も示されていましたし、また、その中で、四日市が目指しているものが、先生おっしゃったように、非常に広範囲になっているわけなんですが、今回提言いただいた内容が、本当に教育大綱もすごく意識をしてつくられたんじゃないかなと思うぐらいに、それぞれこれからやっていきたい理念にも全て網羅的に提言をいただいているので、今回ご提言いただいたこの内容に示されたこと一つ一つにアクションプランを描いて、マネジメントサイクルでしっかりと検証していくというようなことをしていただくと、随分とこれだけでもかちっとしたプランができてくるのではないかなというような印象を持ちました。

○加藤教育委員　そういった意味でいくと、例えばＡ３の表、これで具体的な方策に結びつく頭出しが幾つか書いてもらってあるんですけれども、全部一気にというのは難しいので、この中から、今、杉浦委員もおっしゃったように、何をどうしていくのか、それぞれにつくって、それぞれにやって、同時進行でやるのがいいのか、順次性をつけて実行していくのか、もう１０本でといくのか、そのあたり、事務局で議論をいただいておくと。

○舘政策推進部長　そうですね、現場のこともありますし。

○加藤教育委員　アクションの起こし方といいますか、推進の仕方を議論していただくとよりよいものになっていくように思う。基本プランという、この紙を出していただいただけではちょっと理解ができにくい部分がありますので。

○舘政策推進部長　順番ですね。

○加藤教育委員　まずは学力向上ですけど、その中で、またアクションプランをまずはというものがあってほしいなと。

○舘政策推進部長　確かに、環境の充実では、これは当然財源のことが出てくる。それから、ソフトの施策では、現場がそれに対応をすぐにできるかという問題がありますので、そのあたりはちょっと順番を考えておくべきなんですね。

○加藤教育委員　施設面と教育内容の中身とは並行して進めていただくことは多々あるんでしょうけど。

○舘政策推進部長　そのほかはいかがでしょうか。

○田中市長　このご提言を受けて、最終的にアクションプランが策定されるということですけれども、さらにその先のより具体的な、学校でのもっとブレークダウンした教育方策というか、そういうことについて、私、３つほど提案があるものですから、今日のこの場で議論することじゃないと思うんですけれども、ちょっと皆さんにも聞いておいてもらって、またご意見をいただければと思うんですけれども。

１つは、できたら来年度から、子どもたちの表現力とか説得力とか、そういうものを高めるために、中学生ぐらいが適当だと思うので、中学生の弁論大会を市の教育委員会の主催で開催したらどうかなというのが１点ですね。あまり長い時間は無理だと思うので、５分とかでもいいと思うんですが。それが１点と。

それから、キャリア教育の一環として、県は職員の職場を子どもたちに見せるということをやっているんですけれども、市でも保護者の職場を、了解が得られる保護者の職場ということですけれども、子どもたちに、例えばグループでちょっと見学してもらうとか。それが２点目。

もう一点は、最近よくアクティブ・ラーニングという言葉が使われますけれども、その実施手法の１つとして、１つはいわゆる演習ですね。１つのテーマ、この問題を解決するためにはどうしたらいいのかというのを、例えばＫＪ法とかを使ったりして、演習方式で議論をする、そういう授業もあってもいいのかなというふうに思いますし、それから、アクティブ・ラーニングの一環として、これも中学生ぐらいにならないと難しいと思うんですけど、いわゆるディベートですね。あまり政治的なテーマだとまずいので、日常の親しみやすいテーマについてお互いに議論をし合うと、そういう実習をやったらどうかなという提案が３つ目です。

今までの、静かというか、どちらかというと受動的な、生徒は先生の言っていることを聞くだけで、ノートをとるだけというところから脱皮して、子どもたちが主体的に参画する参加型の授業というものも考えていったら、かなり学力向上につながっていくのかなと、全体の底上げにもつながっていくんじゃないかなと。特に、学力の下位の生徒を引き上げることには直接つながるような気がするので、今申し上げたような３つのそういう方策を、特にアクティブ・ラーニングは、一挙に全校でというと難しいと思うので、モデル校を最初指定してでもいいと思うんですけれども、何とかそういう軌道に乗せるようなことを、一度、教育委員会事務局で学校現場と相談しながら前へ進めてほしいなと。それで、学力、ひいては問題解決能力の向上につなげると、これはあくまでも私個人の提案ということで

す。もし何か皆さんでご意見があればお聞かせいただきたいんですけど。

○舘政策推進部長　そうですね。皆様方がそれに対してこういう考えもあるよというのがありましたらぜひ、どうでしょう。

○加藤教育委員　市長がおっしゃることもよくわかります。特に、来年度からとおっしゃられた１番目の中学生の弁論大会なんですが、これについては、テーマを何にするかというところで、昔の交通安全の弁論大会のようなものもありましたし、市長が主催して教育大綱ができてきたこの機会にスタートさせる何かテーマが、キャッチフレーズとしてあるのはいいのかなと。中学生の主張だけではちょっともったいない気がしますし、だから、仮に、これからの四日市と大きく構えるのか、四日市の問題点みたいなことを述べてもらうのもいいかもわかりませんけど、いよいよふるさと四日市を思う気持ちが、テーマだけでも、看板が出ておるだけでやっぱり、例えば各中学校にそんなポスターがいっぱい張ってあれば、今、こんなことを考えていくのかというアピールもできますので、テーマをどうするかが大事ですね。

○田中市長　そうですね。本当に今、いいご指摘をいただいたと思います。今までの弁論大会というと、それぞれの生徒がテーマ、自分らが選んで言いたいことを言うという感じでしたけど、やっぱりテーマを決めてとなるとより深まりますよね。

○加藤教育委員　今回の新しい教育委員会制度の中で生まれた弁論大会という意味合いが出てきますので、ちょっと私も何がいいのかわかりませんけど、そうやって考えていく必要があるのかなと。それならより効果は期待できるという気がしますね。

　あとの２番、３番については、キャリア教育の推進はいろんな場面でうたってもらっていますので、その１つとして、今、市長がおっしゃるような手段もあるでしょうし、あるいは、アクティブ・ラーニングも、ディベートがいいのかはともかくとしても、これからアクティブ・ラーニングという手法は、今後の授業構成で大きなウエートを占めてきますので、四日市もやっぱり全国に乗り遅れずにやっていっていただくことになりますので、まずは１番と、あとはもう放っておいても多分２、３は、失礼な言い方ですけど、進んでいくと思います。

○田中市長　アクティブ・ラーニングは、学校の先生の能力養成も伴わないと難しいですけどね。

○加藤教育委員　ディベートもひところはやってましたよね。教育長がご専門でしたね。

○葛西教育長　そうですね。１０年ほど前にディベートを随分、学校現場でやりました。

ところが、やっぱりテーマが難しいという、テーマによって全然話が発展していかないという問題と、それから、もう一つは、ディベートというのは、自分が本当に思ったことを主張するのではなくて、Ａという立場で話をするものですから、それも１つ、どんな視点からでも意見を言えるということは大事なことなんだけれども、本当に自分がこれを思ったということを、きちっと根拠を示し、そして、事実もたくさん集めてそうやって発表するのがいいんじゃないかなということで、ちょっと小中現場ではディベートは難しいということで、今は下火になってきています。

○田中市長　小学生はちょっと無理と思う。せいぜい中２か中３だと思うね。

○杉浦教育委員　大学も非常にアクティブ・ラーニング転換のときでして、もう次年度からシラバスにしっかりとその辺をというところも求められてきております。

弁論大会も、テーマの設定によって非常に素敵なものになると思いますし、願わくば、弁論大会だけで終わらずに、おそらく、弁論大会に出てくる児童生徒はすごくモチベーションも高かったり、いろんな考え方も深くできる子たちだと思うので、第１部が弁論大会で、第２部が、そのテーマでもっと深めるための子どもたちのディスカッションで、これからの四日市の市政に、もしかしたらすてきな戦略のアイデアとかをいただけるような気もするので、そういったところで発展をぜひ、イベント性を持たせてもらえるといいかなと思います。

○加藤教育委員　僕も思いつきですけど、いきなり文化会館に集まってやりましょうじゃなくて、近隣の中学校あたりで、今年は、北のほうやったら朝明中学校を会場に、西朝明や保々や富田、富洲原あたりが寄ってきてやりますと、そういう小ブロックで３つ、４つをやって、それも体育館を会場にして、その学校の生徒の前でというようなことをやれば、今テーマになっていることがどんなことかも生徒に浸透する。中学校も本当にカリキュラムががっちりですので、そんな協力も得られるか得られないか難しい部分はありますけど、何かそういう大きな流れの中で弁論大会という手段でもって、やっぱり中学生の底上げを図っていくということになっていくとありがたいですね。

○田中市長　単発じゃなくてね。

○松崎教育委員　できる子だけが参加するのではなくて、例えばそういうふうに誰か代表が言うのであれば、あちこちの中学生全員が集まってきてみんなが聞く機会を持つとか、その後の話し合いがあるとか、全員が考える機会を持たないと意味がないかなという気がします。

○田中市長　全員が考えて自分らの代表を出すような。

○杉浦教育委員　そうなると、授業でも調べ学習で全員が参加をするので、おのずとアクティブ・ラーニングにつながっていきますよね。

○加藤教育委員　これ、計画いただくのは大変で、もしやってくださると、かなり綿密な計画をしながら、言葉は弁論大会ですけど、これを１つの有効な手段にして、今日話し合っていることの中身が進むような手だてにしていかないともったいない気がしますね。そうするべきだと思いますし。

○田中市長　パッケージですね、１つの。

○加藤教育委員　また教育ではない市長のパッケージの中で、ひとつここでやらないと。

○田中市長　１つ考えていたのは、表彰もするつもりなので、優秀者はまた後ほど来てもらって、私と面談する中で、ちょっとした議論ができるようにしたいなとは思っていたんです。そこまででしたので、今日いただいたご意見はもっと広がりがある。

○舘政策推進部長　最初からテーマもそういう形でもいいですね。

○加藤教育委員　教育委員会が主催する弁論大会じゃなくても、市長が主催する弁論大会に、学校の協力を得ると。

○舘政策推進部長　そのあたりも、アクションプランの中のより具体的な項目として考えていきたいと思います。

　そのほかにいかがでしょうか。アクションプランに対する、次回、原案に対してもまたご意見は頂戴できますので、そこでまたより具体的な話し合いもさせていただけると思っておりますが、よろしいでしょうか。

　それでは、ありがとうございました。今日いただいたご意見も含めまして、次回、アクションプランの案を作成いたしまして、またこの会議でお諮りしたいと思います。ありがとうございました。

４　その他

○舘政策推進部長　以上で、本日予定しておりました議事については全て終了いたしました。

　次回は、アクションプランについてのご議論をいただきますけれども、日程につきましては、また再度事務局で調整させていただきます。おそらく１月、年明けになろうかと思います。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

○加藤教育委員　これはまだ決まっていませんね。

○舘政策推進部長　まだ決まっておりません。１月ごろということになろうかと思います。

その他、何かございますか。

事務局も、その他、よろしいですか。

長時間にわたりましてご議論をいただきまして、ありがとうございました。教育大綱につきましては、最終、きちっとまとめて、また皆さんにご報告させていただきます。本日は、長時間にわたりましてありがとうございました。

午後　３時３３分　閉会